

『感謝して楽しむししまい』

私の町内では、毎年春にししまいがあります。男の子が、ししや、天狗の役になって、天狗が悪いししを追い出し、豊作を願います。他には、女の子が横笛をふいたり、大人の男性がたいこをたたいたり、かねを鳴らしたりします。町内の一軒一軒を回ります。そして、結こんした夫婦の家や、子どもが生まれた家は、ふつうの家とは、ししと天狗のおどりがちがってきます。ゆっくりとおどったり、はげしく速くおどったりします。結こんした夫婦の家や、子どもが生まれた家はこういった動きの速さがちがうので、ししと天狗がどちらもねばり強く戦っていて、天狗は一生けん命悪いししを追い出そうとしているすがたが魅力です。私はこのおどりを見たとき、きつと豊作だけでなく、町内の人々の幸せも願うししまいなのではないかなと思います。そのすがたにあこがれて、私は、自治会長の方に、来年、天狗を務めたいと申し出ました。ちょうど、町内の男の子がへってきていたのもあり、いいよと、返事もらいました。三月になると練習が始まりました。自分の思い通りにおどれず、泣いてしまうこともありましたが、必死に練習しました。そしてししまい当日になり、私はたくさんのお家でおどりました。重い衣装や、動きにくいはき物の中、まちがえないようにおどるのが精いっぱいでした。ししまいの後、自分で、反省をしました。豊作を願う祭りだから、豊作を自分の心で、願いながらししと戦おう。来年はそうするんだ、と決めました。

新型コロナウイルスが流行しました。ししまいは中止になり、町内の活気が失われるなか、長い日を経てまた新年をおかえました。二〇二一年です。今年こそと思っています。流行が止まらない今、ししまいはきつとまた中止になるでしょう。もし今年中止になったら、来年は、横笛をふかなければなりません。中学校の女の子は、必ず横笛をふかなければいけないからです。天狗として豊作を願うことができなくなってしまふのはつらいです。また、町内の活気をもっと失ってしまうのは残念です。豊作は願わなくても、その年はだいたい豊作です。でも、ししまいは行いたくなります。こんなことを考えていたら、ししまいをすることは、町内の様々なことを感謝するということなのではないかと思ってきました。町内の人々で祭りができることに感謝したり、豊作を神様に願い、豊作になったお米や野菜に感謝する。感謝するからこそ、町内の幸せも生まれてくるのではないかと思います。

これから、お祭りは感謝して楽しんでいこうと考えて、参加しようと思います。